

24. 乾式汚染法による布の汚染性・洗浄性について

広島女子短大 水野上与志子

お茶の水女子大 矢部 章彦

1. 汚れの付着機構・洗浄機構を明らかにする研究の一部として、乾式汚染法による汚染性と洗浄法をしらべ CCl_4 浴による湿式汚染法の結果と比較検討した。

2. a) 汚れの種類 カーボンブラック（玉川圧縮C級）を、標準綿布に乾式汚染し、綿布に予め油性汚れとして、ラウリルアルコール（LA）、牛脂（BT）、流動パラフィン（LP）を吸着せしめた。

b) 汚れと付着前の布の状態水、 CH_3OH 、 CCl_4 をそれぞれ吸着させた後、汚染（油性汚染次いでCB汚染）を行い、表面反射率の変化を測定した。

3. 布の表面状態（吸着物質の差異）、汚れ成分、汚染法、洗浄条件等により汚染性・洗浄性は著しく変化し、統一的な因果関係を求めることは現状では困難であるが、ここでは上記条件における乾式汚染布についての結果を総括して述べる。

a) 汚染性は CCl_4 を吸着した布の方が CH_3OH を吸着した布より暗くなる。油脂吸着による汚染性は何れも油脂を吸着した方が暗くなり、油脂別では LP 吸着が最も暗くなり、BT、LA の順に明かるくなる。

b) 洗浄性は、油性汚れとCB共存の方がCB単独の場合より落ち易く、油性汚れの種類別では、LA と共存する場合が最も洗浄効率高く、次いでBT、LP の順に低くなる。